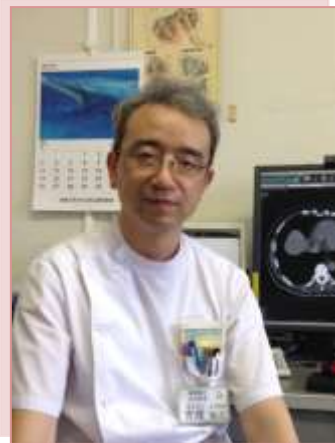




- ◎ 地域医療支援病院
- ◎ 地域がん診療連携拠点病院
- ◎ 病院機能評価認定病院
- ◎ 臨床研修指定病院

号外 平成 27 年 7 月 1 日発行

肺高血圧専門外来開設



福島労災病院 循環器科主任部長
吉成 和之



福島労災病院にて平成 27 年 7 月より毎月第二水曜日 13 時より肺高血圧専門外来を開設致します。

福島県立医科大学 肺高血圧先進医療学講座 杉本 浩一先生が診察を担当します。息切れなどの症状から肺高血圧症かな、と不安に思っている患者様がいましたら、かかりつけ医または当院循環器科へご相談下さい。

福島県立医科大学 肺高血圧先進医療学講座
准教授 杉本 浩一



この度、平成 27 年 7 月より福島労災病院において、県内では福島県立医大に次いで 2 番目となる肺高血圧専門外来が開設されることとなりました。

肺高血圧症は、原因不明の中膜肥厚や血栓などにより、血管内腔狭窄、肺動脈圧上昇をきたし、右心不全から死に至る、かつては極めて予後不良の疾患でしたが、現在では複数の肺血管拡張薬が使用可能となり、生命予後は飛躍的に向上しています。

成因にもよりますが、特発性肺動脈性肺高血圧症の場合、以前は診断からの生命予後は約 2 年でしたが、肺血管拡張薬を適切に投与すれば、5 年生存率は 80-90%まで改善するようになっていきます。また、シャント性疾患で、アイゼンメンジャー化により手術が不可能と考えられていた患者さんの中にも、肺血管拡張薬と手術のハイブリッドにより治療可能な方がいたりします。さらに、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対しては、手術の他、バルーンカテーテルによる肺動脈形成という選択ができるようになっていきます。

しかしながら、肺高血圧症の疾患頻度は決して高くなく、主訴として最も多い「息切れ」は、特異的な症状ではないことから、なかなか診断に至らないことも多く、複数の病院を転々としているうちに重症化する患者様や、肺高血圧の基礎疾患鑑別や薬剤の使用が不十分であるために増悪してしまう患者様もあり、診断、治療にはある程度の専門性が必要とされます。



肺高血圧を疑う、あるいは診断後どのように治療すべきか迷われている患者様がいらっしゃいましたらぜひご相談いただければと思います。

整形外科の外来診療体制について

4月から奥野整形外科副部長・岩井医師の2名体制で診療に当たっています。
 10月から奥野医師と交替で八幡健一郎医師が診療に当たります。
 火・木は診療応援医師により、月1～2回の午後診療を行っています。
 12月以降の診療体制については改めてお知らせします。



	月	火	水	木	金
1診	奥野洋史 (10/1～ 八幡健一郎)		奥野洋史 (10/1～ 八幡健一郎)		奥野洋史 (10/1～ 八幡健一郎)
2診	岩井和夫	関東労災病院医師 13:00～17:00 8月4日、18日 9月1日、15日 10月13日、17日 11月17日	岩井和夫 (リウマチ外来)	東京大学医師 13:00～17:00 8月13日、27日 9月10日、24日 10月8日、22日 11月12日、26日	岩井和夫



(受付時間) 8:15 ～ 11:00 (月・水・金)
 8:15 ～ 15:00 (火・木)

(診察時間) 8:30 ～ 17:00 (月・水・金)
 13:00 ～ 17:00 (火・木)

